

1 研究主題

『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
～昨年度までの各校の実践交流と校内組織の機能化の成果を活かし、自校の課題にあった働き方改革を進め、小樽市小中学校全体の業務改善に役立てる～

2 研究推進の概要

活 動 計 画	評 価（成果と課題）
（１）学校組織の機能化～教職員の経営参画意識の向上と人材育成～	校長会のテーマである「自走と共走」を基本姿勢とした取組の中で、教務主任の機能化など学校の組織化を推進する取組が着実に形になってきている。教職員の経営参画意識の向上を図り、次代のスクールリーダーを育成するための職能向上研修会を、今年度も小学校校長会研修部と協力し、年３回実施した。第１回目・２回目は、管理職・ミドルリーダー育成に係る研修を実施。第３回目は、文部科学省学校DX戦略アドバイザー 菅野光明氏を講師に『子どもたちの学びの充実に向けた端末の利用と学校体制づくり』を演題として講演会を開催した。
（２）業務改善の推進～教育DXと働き方改革の推進～	業務改善として、①業務の精選、②業務のＩＣＴ化、③業務の平準化、④環境整備を進めてきた。特に「会議時間の短縮」「統一した取組」「業務内容や分担の見直し」「業務担当複数配置」「ＩＣＴの活用」は効果的であった。
（３）評価システムの改善～通知表等の扱い～	事務局が中心となり、小学校長会と連携しながら進めてきた。令和８年度からの実施に向け、準備委員会並びに、各学校の主幹教諭・教務主任と校長会研究部で構成された教育課程部会及び評価部会で検討し、原案を作成している。令和７年度には各学校やＰＴＡからの意見をもとに決定する見込みである。
（４）研究紀要の刊行	１年間の足跡を残すため、北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会の提言発表内容を中心に掲載した。（昨年度と同様に、データ配信）

3 研究の成果と課題

北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会の提言発表を念頭に置き、この３年間研究を進めてきた。その取組の中で得た成果と課題は次のとおりである。

【成果】

- ・人材育成を推進したことで、ミドルリーダーの意識の向上が見られ、各学校での経営参画、教務主任の機能化など成果が表れてきている。
- ・業務改善するための統一した取組により、ミドルリーダーの意識向上とともに組織の機能化が図られてきている。
- ・業務改善を推進したことで、各職の超過勤務時間は、月平均で約７時間の縮減が図られている。
- ・校務支援システムや家庭との連絡ツールの導入・積極的な活用により、働き方改革を更に推進できた。

【課題】

- ・人材育成を推進しているが、管理職、特に教頭候補者不足は、今後の学校経営上の大きな課題となる。
- ・学校に求められることは多く、何をスクラップし、業務改善を図るかは今後も考え続けなければならない大きな課題である。

1 研究主題

『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育』
～昨年度までの各校の実践の成果を生かしたより良い教育環境づくり～

2 研究主題設定の趣旨

社会や経済の先行きに対する不確実性が一層高まり、激しい変化が止まることのない時代を生きる子どもたちが、自らの手で未来を力強く切り拓く力をつけるため、新しい時代に沿った学校づくりが求められている。そこで、小樽市校長会は、昨年度のテーマ「自走」と「共走」を継承しつつ、教育の質の向上を目指した「持続可能な新たな学校づくり」をテーマとして掲げ、重点目標を「子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育環境の整備」とした。

昨年度、小樽市中学校長会は、①学校運営組織の機能化、②小中一貫教育の推進、③人材育成、④業務改善の4観点から研究を深めてきた。成果としてミドルリーダーの意識の向上や超過勤務時間の縮減などが図られてきているが、人材育成や業務改善については今後も考え続けなければならない大きな課題である。今後も安心・安全な学校、働きやすく、働きがいがある学校、そして生徒に必要な資質・能力を確実に身につけさせることができる学校を目指し、教育活動を推進していく。現在、持続可能な社会の創り手を育成するために各学校が実態を考慮しながら創意工夫し、実践を積み重ねている。その土台となる教育環境づくりを各校が自走し、これまでの研究の成果を生かして小樽市中学校長会として共走することで小樽市校長会が掲げるテーマ「持続可能な新たな学校づくり」の実現を図っていく。さらに、令和7年度の全日中での提言発表に向け、「キャリア教育と進路指導」についての研修も深めるものとする。

3 研究内容

- (1) 「学校マネジメント機能の強化～教職員の経営参画意識の向上と人材育成～」
- (2) 「業務改善～教育D Xと働き方改革の推進～」
- (3) 「キャリア教育と進路指導の充実」

4 研究推進計画

- 5月 定例校長研修会議にて研究部活動計画案検討
- 6月 中学校研究部としての研究内容検討、提言P Pについての検討
- 7月 資料をもとにした提案他、提言P Pについての検討
- 8月 研修内容にもとづいた研修、提言P Pについての検討
- 9月 研修内容にもとづいた研修、提言P Pのリハーサル
- 10月 課題改善に向けた各校の取組状況の確認
- 11月 実態交流と課題改善の検討
- 12月 実施状況確認
- 1月 次年度に向けた方向性の確認

5 研究組織

部長	山本 俊次	(桜町中学校)	・	代永 研	(菁園中学校)
	駒場 秀剛	(西陵中学校)	・	田中 孝二	(長橋中学校)
	佐川 聖明	(潮見台中学校)	・	浦寄 昌明	(望洋台中学校)